

第5講 雑誌登録実習1

p.53-73

このコマで理解して欲しいこと

所蔵登録(新規・更新・削除)の流れ
雑誌の所蔵データ記入法

このコマの進め方

パターン1の2日間のカリキュラムではこのコマは行わない。代わりに書誌登録の実習の中で、所蔵登録までの流れと記入方法の確認を行う。

以下、パターン2の2.5日カリキュラムでの進め方

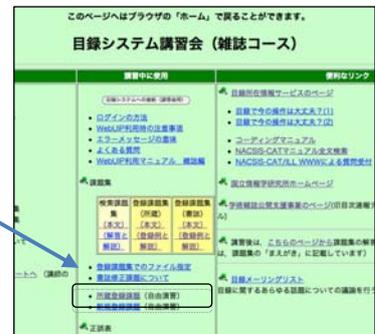
SL教材では、テキストp.53-73と登録課題集の所蔵登録は同じ例題・課題を使っている。受講者は事前にSL教材で「雑誌所蔵登録」までを学習している前提で、講習会でも行う場合の進め方を、①テキストでの復習、②課題の実習の例で示す。

①テキストでの復習

1. 所蔵登録についての流れと所蔵データ記入法についての説明
2. 付録8 巻レベル・号レベルの考え方を説明
3. 具体的な新規・更新・削除の方法について、テキストによる説明、テキスト例題の実習を行う。

②課題の実習

1. 登録課題集p.4-5を実習(ただし、既に事前学習済み)、または検索課題集のSERIALにヒットするものに所蔵登録課題を準備する、または講習会用Webサイトの所蔵登録課題(自由演習)を行う。
2. 登録実習解説



<時間配分の目安>

| | ①80分 | ②80分 |
|----------------------------|------|------|
| 所蔵登録の手順、巻レベル・号レベル、所蔵データ記入法 | 30分 | |
| 所蔵登録(新規) | 15分 | |
| 所蔵登録(更新) | 15分 | |
| 所蔵登録(巻次変更) | 15分 | |
| 所蔵削除 | 5分 | |
| 課題実習(実習の進め方含む) | | 60分 |
| 課題解説 | | 20分 |

説明のポイント(テキスト中心に進める場合)

- このコマでは、総合目録データベースにヒットし、かつ、修正の必要がない場合を想定して、所蔵登録のみを行うことを冒頭で説明する。
- 雑誌の登録作業では、所蔵登録が重要である。このコマはしっかり理解してもらえるよう気を配る。
- 目録所在情報サービスとして、雑誌の所蔵情報はILLでも主に活用されており、総合目録データベースの利用の観点での重要性を強調する。

| | |
|----------------|---|
| <p>p.53</p> | <p>1.所蔵登録の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 所蔵登録全体の流れを確認する。操作自体は非常に簡単であることを強調して、受講者(特に初心者)の操作に対する不安を取り除く。 ● 実際の業務と結びつけて、流れ図下方の【所蔵登録】は新しくその雑誌を購入または受入れたとか、遡及入力しようという時、【所蔵修正】は所蔵更新として雑誌では頻繁な作業、【所蔵登録(流用)】は配置場所の異なる雑誌を新たに入力する場合(この講習会では説明しない)、というような補足をするとわかりやすい。 |
| <p>p.163</p> | <p>付録8. 巻レベル・号レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 雑誌の登録作業では所蔵登録がメインであり、所蔵登録はすべての登録に共通する操作なので、「第5講2所蔵データ記入法」に入る前に、このコマで事前に2階層の表現の理解を徹底する。 ● 所蔵レコードにおける巻(号)は、必ずしも目録対象資料に書かれている巻(号)の表現と一致しないことに注意する。 ● 所蔵巻(号)は記号化をすることで、機械的な絞り込みが可能になる。図書と異なり、所蔵している巻号までが的確に表現されなければならないことを理解してもらう。 |
| <p>p.54-61</p> | <p>2.所蔵データ記入法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 例を示すなど、できるだけ単純にわかりやすく説明する。付録8をふまえ、ポイント「HLYR:最古年次-最新年次」「HLV:X(Y)」「所蔵レコードは書誌レコードのVLYRの範囲を越えないこと」をしっかりと覚えるように指導する。時間配分にも気をつける。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="395 1541 877 1854"> <p>雑誌所蔵一覧(教育用サーバ)</p> </div> <div data-bbox="933 1541 1332 1854"> <p>雑誌所蔵詳細表示(教育用サーバ)</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 所蔵年次は出版(刊行)年ではなく、順序付けを表す年代であることを注意する。 ● p.59の注意事項(CONT:+でも最新の号のデータを記入):CONTの有無に関わらず、所蔵データは常に最新の号までを記入するのがルールであることを説明する。 |

| | |
|----------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 2.8 所蔵データとVLYRフィールド^①では、p.60のVLYRとHLV・HLYRの関係の図解を使用するとよい。 ● p.61練習問題 正解 <ol style="list-style-type: none"> 1. HLV:1-3 HLYR:1998-1999 2. HLV:1-2,4 HLYR:1998-1999 3. HLV:1-3 HLYR:1999-2001 4. HLV:1,2(1-2,4),3(1-3),4-5 または 1,2()-3(),4-5 HLYR:1999-2003 |
| <p>p.62-64</p> | <p>3.所蔵登録(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テキストにそって全員で実習を行う。 ● 情報源をよく見る習慣も大切である。例題1では刊行頻度・発行月が表紙に書かれていることにも注目する。 ● 所蔵登録の流れだけでなく、所蔵レコードの各フィールドの簡単な説明も行う。 ● この例題は刊行頻度から判断して、16は不完全巻であるという解説も必要。 ● <u>誤りやすい解答例</u> HLV:1-16 は×。 ● ローカルシステムで使用するデータも同一の画面で入力するクライアントが多い。総合目録データベースに登録しているデータはどれなのか、ということを確認して説明する。 <p>LOC 配置コードとは国立情報学研究所に事前に申請した任意のコードである。各参加館ごとに異なり、申請した配置コードのみ選択できる。テキストでは、配置コード「書庫」を申請しているという想定である。「この講習会では、配置コードは、「書庫」を使用する」ということを最初の所蔵登録時に注意する。</p> <p>HLYR, HLV, CONT 自館の所蔵状況(講習会では例題の指示)に応じて正確に記入する。</p> <p>CLN, CPYNT, LDF, LTR 具体的にどのような値を入力するかは、各図書館で決める。</p> |
| <p>p.65-67</p> | <p>4.所蔵登録(更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 例題1の所蔵レコードを更新するという例題の説明を最初に確認する。平成23年度テキスト改訂で例題を最近の号に取り替えた。通常カレントな雑誌受入業務で行う所蔵更新作業を想定して説明するとわかりやすい。 ● さらに書誌レコードの刊行頻度変更についての注記にも注目するよう促す。 ● 情報源と例題文から、まず所蔵レコードの記述を考え、次にテキストにそって全員で実習を行うこともよい。 |

| | |
|---------|--|
| p.68-70 | <p>5.所蔵登録(巻次変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報源と例題文から、まず所蔵レコードを考え、次にテキストにそって全員で実習を行うこともよい。 ● <u>誤りやすい解答例</u> HLV:1-6,7(1);14-22（巻次変更前7巻は1号だけで完全巻） HLYR:1979-1989（巻次変更のセミコロンはHLVとHLYRが対応） ● この例題を次の例題4で削除の実習として使う。 |
| p.71-73 | <p>6.所蔵削除</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 所蔵削除は除籍・廃棄の際などに起こる作業で、CATのデータはILLで使用されるため、常に正しく所蔵を反映しておく必要があることを強調。 ● 書誌レコードは共有レコードで削除できない点を補足する。 |

説明のポイント(実習中心に進める場合)

- このコマでは、総合目録データベースにヒットし、かつ、修正の必要がない場合を想定して、所蔵登録のみを行うことを冒頭で説明する。
- **雑誌の登録作業では、所蔵登録が重要である。** このコマはしっかり理解してもらえるよう気を配る。
- 目録所在情報サービスとして、雑誌の**所蔵情報はILLでも主に活用**されており、総合目録データベースの利用の観点での重要性を強調する。このコマでは、総合目録データベースにヒットし、かつ、修正の必要がない場合を想定して、所蔵登録のみを行うことを冒頭で説明する。

登録課題集 所蔵登録(p.4-5)使用

- 問題文に特に継続受入れ予定の旨が書かれていなければ、継続ではないとして解答するように指示する。
- 所蔵更新の課題は、所蔵新規登録の課題(1, 2, 3, 9, 10)を行っていないとできないので、最初に、どの課題同士が対応しているのか簡単に説明するとよい。
- 最初に、時間内に全部こなす必要はないことを強調する。時間が足りない場合は、あらかじめ課題を指定して行う方法をとる。
- 時間が余ってしまう受講者がいた場合は、講習会用サイトの「所蔵登録課題(自由演習)」をやるよう指示する。(下図)
- 検索で戸惑う受講者がいる時は補助する。
- 間違っ書誌登録課題を行ってしまうことのないよう、平成24年度テキスト改訂で、課題集まえがきに注意書きと、登録課題の前に扉を挿入した。
- 目立った誤り、間違いやすい点を重点的に説明する。SL教材でどのように解説しているか、事前に確認しておくことが望ましい。平成23年度テキスト改訂で解答例集に書誌簡略表示を示し、VLYRとの対応を確認できるようにした。

【個々の課題についての注意点】

課題3 創刊準備号の記述に関連して『コーディングマニュアル』17.2.2 HLVのD7.2.7を紹介することもよい。

課題5 番号付けとして元号しかなく、元号が新しくなったことが巻次変更になる例。

課題12 Reprintの例。VLYRが-v. 35, no. 1 (Apr. 1964)で閉じているので、v. 35は完全巻とみなす。HLV は1-35。

課題9, 14 FIDのリンクについて修正されていない。

なお、平成22年度テキスト改訂で所蔵登録の課題に刊行頻度を補記した。

検索課題集の例で事前に課題を準備

- 事前に検索課題集でSERIALにヒットするものに、所蔵登録する課題を用意して配布する。
- 検索課題集でSERIALにヒットする課題は下記の通り。書誌レコードのVLYRや刊行頻度等と矛盾がないような所蔵登録課題を作る。

課題 1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 22, 23, 24

所蔵登録課題(自由演習)を使用

- 課題実習時の注意点は登録課題集(p.4-5)使用の場合と同じ。
- 解答は、<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/product/cat/kadai-z-h/practice.html> からリンクしている。

所蔵新規登録

1. 「地形」(ISSN=03891755)の 1 巻 1 号(1980)から 6 巻 2 号(1985)までを登録する。この雑誌は 6 巻 2 号をもって受け入れを中止した。[解答](#)
2. 「レコード芸術」(ISSN=02893614)の 1 巻 1 号(昭 27.3)から 30 巻 12 号(昭 56.12)までを登録する。ただし、28 巻 2,4,5 号は欠号である。この雑誌は 30 巻をもって受け入れを中止した。[解答](#)
3. 「朝日年鑑」の昭和 56 年(昭 56)から昭和 59 年(昭 59)までを登録する。この雑誌は今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
4. 「数セミ：数学セミナー」(ISSN=03864960)の 24 巻 10 号(1985)から 28 巻 9 号(1989)までを登録する。この雑誌は 28 巻 9 号をもって受け入れを中止した。[解答](#)
5. 「鶴見女子大学紀要」の 1 号(昭 38)から 9 号(昭 46)を登録する。この雑誌は今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
6. “Richard Wagner Jahrbuch”の 1.Bd.(1906)から 2.Bd.(1907)を登録する。この雑誌は今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
7. “Byte”(ISSN=03605280)の Vol.1, no.1(1975)から Vol.7, no.5(1982)までを登録する。この雑誌は今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
8. “Chemical Abstracts. Numerical patent index”の Vol.90(1977)から Vol.92(1979)までを登録する。この雑誌は今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
9. “International railway journal”の Vol.7, no.1(1967)から Vol.16, no.12(1976)を登録する。ただし、Vol.7, no.9、Vol.12, no.3,4 は欠号である。この雑誌は Vol.16, no.12 をもって受け入れを中止した。[解答](#)
10. “Modern passenger transportation”の Vol.55, no.12(1959)から vol.56, no.7(1960)までを登録する。この雑誌は今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)

所蔵更新

1. 「地形」(ISSN=03891755)の 9 巻 1 号(1988)から 16 巻 2 号(1995)までを登録する。なおこの雑誌は受け入れを再開し、16 巻以降も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
2. 「レコード芸術」(ISSN=02893614)の 28 巻 2,4,5 号の欠号補充を行ったので、追加登録する。[解答](#)
3. 「朝日年鑑」の 1985 年(1985)から 1995 年(1995)までを追加登録する。[解答](#)
4. 「数セミ：数学セミナー」(ISSN=03864960)の 28 巻 10 号(1989)から 30 巻 4 号(1991)までを追加登録する。この雑誌は 30 巻 4 号をもって受け入れを中止した。[解答](#)
5. 「鶴見女子大学紀要」の 10 号(昭 47)から 32 号(平 7)までを追加登録する。ただし、「鶴見女子大学紀要」は、11 号から「鶴見大学紀要. 第 1 部, 国語・国文学篇」(ISSN=03898008)と、「鶴見大学紀要. 第 2 部, 外国語・外国文学編」(ISSN=03898016)に変遷しているが、その両方を所蔵している。[解答](#)
6. “Richard Wagner Jahrbuch”の 3.Bd.(1908)から 5.Bd.(1913)を追加登録する。また、1.Bd.は、所在不明のため、所蔵から削除する。[解答](#)
7. “Byte”(ISSN=03605280)の Vol.7, no.6(1982)から Vol.8, no.6(1991)までを追加登録する。この雑誌は Vol.8, no.6 をもって受け入れを中止した。[解答](#)
8. “Chemical Abstracts. Numerical patent index”の Vol.93(1980)から Vol.109(1988)までを追加登録する。ただし、“Chemical Abstracts. Numerical patent index”は、Vol.94(1981)から、“Chemical Abstracts. Patent index”(ISSN=00092258)に変遷している。また、Vol.100,103 は欠号である。この雑誌は Vol.109 をもって受け入れを中止した。[解答](#)
9. “International railway journal”の Vol.17, no.1(1977)から Vol.31, no.11(1991)までを追加登録する。ただし、“International railway journal”は、1979, no.1 から “International railway journal and rapid transit review”(ISSN=07445326)に変遷している。なお、この雑誌は受け入れを再開し、今後も継続して受け入れる予定である。[解答](#)
10. “Modern passenger transportation”の Vol.56, no.8(1960)から、Vol.59, no.3(1963)までを追加登録する。この雑誌は Vol.59, no.3 をもって受け入れを中止した。ただし、“Modern passenger transportation”は、Vol.57, no.1 から、“Metropolitan transportation”に変遷している。[解答](#)

所蔵削除

1. 「鶴見女子大学紀要」の所蔵調査を再度行った結果、実は第 2 部は所蔵していないことが判明したので、第 2 部の所蔵を削除する。
2. 他大学に“Richard Wagner Jahrbuch”を移管したので、“Richard Wagner Jahrbuch”の所蔵の全巻を削除する。